

事務事業及び予算の執行実績

(令和6年度分『一部令和7年度分を含む』)

静岡県立浜北特別支援学校

目 次

1	事務事業の概要	1
2	事務執行の根拠法令調	17
3	学校施設の概要	18
4	在籍生徒調	20
5	入学志願者及び入学者数調	22
6	卒業生の動向調	23
7	生徒の状況	24
8	特別支援学校における生産物売払調	26
9	預金調	28
10	郵便等受払調	29
11	材料品受払調	30
12	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	31
13	委託料に関する調	33
14	負担金支出調	38
15	建築工事調	40
16	公有財産調	41
17	事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	43
18	行政財産貸付・使用許可調	44
19	主要備品調	45
20	公務中の事故等に関する調	46
21	工事中の事故に関する調	48
22	前回の監査結果等改善状況調	49
23	職員調	50
24	職員の年齢調	56
25	健康管理	57

事務事業の概要

1 概況

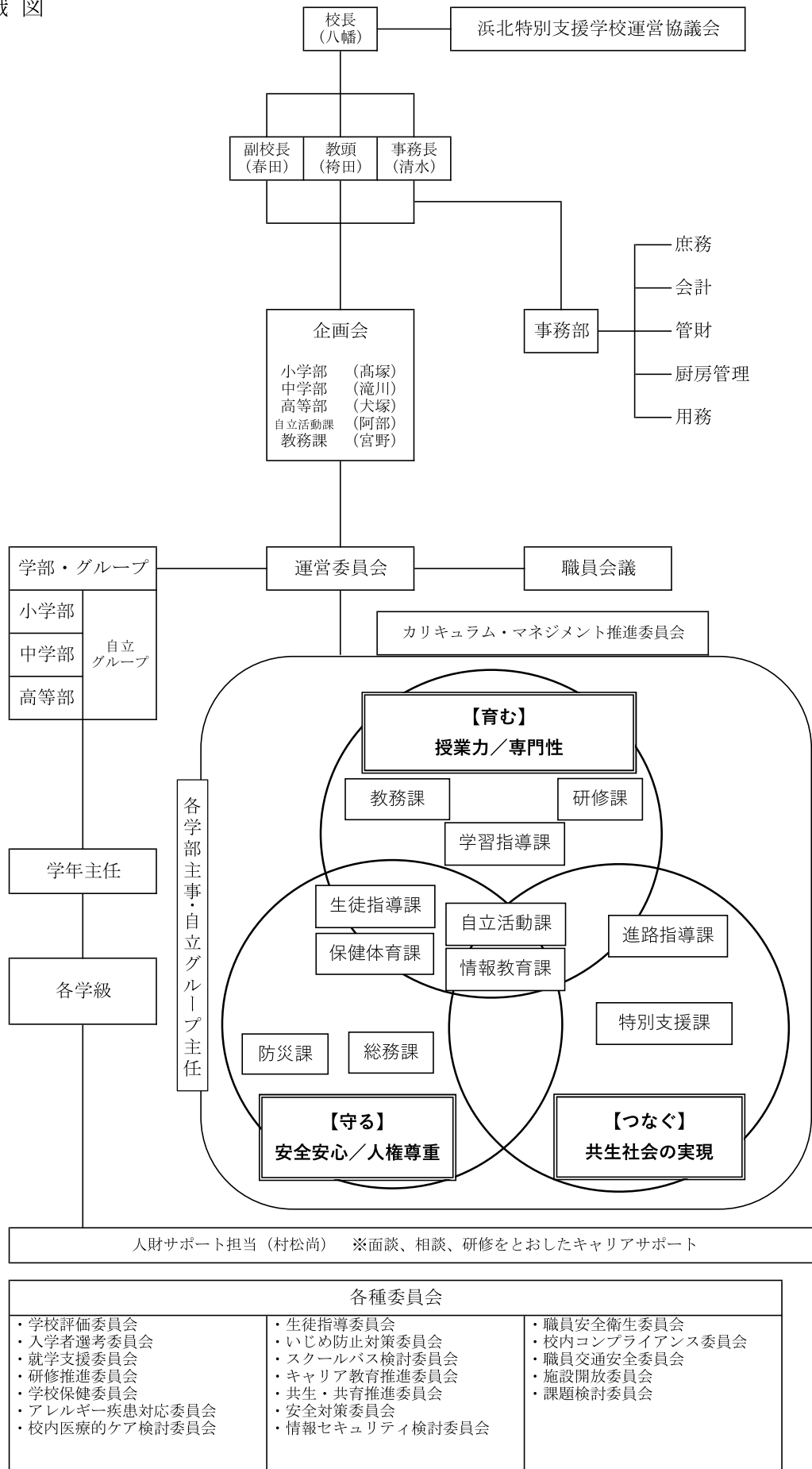
(1) 学校の沿革

平成 13 年 8 月 29 日	第一回浜北市立養護学校県立移管準備委員会開催
平成 16 年 3 月 26 日	浜北市立養護学校県立移管準備委員会「最終報告(案)」策定
平成 17 年 9 月 15 日	県教育委員会定例会において、県立移管に関わる校地を浜北市中瀬地区に選定し、開校年度を平成 21 年 4 月予定と発表
平成 17 年 11 月 18 日	浜北養護学校県立移管地元説明会開催
平成 17 年 12 月 6 日	浜北養護学校県立移管地質調査地元説明会実施 (調査期間 平成 17 年 11 月 25 日～平成 18 年 1 月 31 日)
平成 18 年 3 月 17 日	2 月県議会にて平成 18 年度当初予算に基本設計費を計上
平成 19 年 5 月 28 日	県立浜北養護学校(仮称)整備事業地元説明会実施
平成 20 年 1 月 29 日	県教育委員会定例会において、静岡県立特別支援学校学則の一部改正
平成 20 年 3 月 25 日	県議会にて県立学校設置条例を改正。名称を「静岡県立浜北特別支援学校」とすることを可決
平成 20 年 4 月 1 日	浜松市立浜北養護学校県立移管及び静岡県立浜北特別支援学校設置準備委員会設置
平成 20 年 5 月 12 日	静岡県立浜北特別支援学校 起工式
平成 21 年 4 月 1 日	静岡県立浜北特別支援学校 開校
平成 21 年 4 月 9 日	第 1 回入学式(小学部 18 人、中学部 16 人、高等部 33 人入学)
平成 21 年 4 月 10 日	静岡県立浜北特別支援学校 開校式(児童生徒数 146 人)
平成 22 年 3 月 18 日	第 1 回小学部、中学部卒業式(小学部 9 人、中学部 15 人卒業)
平成 22 年 4 月 1 日	スクールバス 1 台増車(委託)計 3 台で運行
平成 23 年 3 月 15 日	空調設備工事完成(小中学部棟 4 教室)
平成 23 年 12 月 13 日	空調設備工事完成(小中学部棟 8 教室)
平成 24 年 3 月 7 日	第 1 回高等部卒業式(34 人卒業)
平成 24 年 4 月 1 日	スクールバス 1 台増車(委託)計 4 台で運行
平成 26 年 3 月 28 日	災害用仮設トイレ設置工事完成
平成 26 年 4 月 1 日	スクールバス 1 台増車(委託)計 5 台で運行
平成 27 年 2 月 13 日	蓄電池付太陽光発電設備工事完成
平成 29 年 2 月 28 日	空調設備工事完成(職員室)
平成 30 年 11 月 23 日	創立 10 周年記念式典
平成 31 年 4 月 26 日	空調設備工事完成(小中高等学部棟 28 教室)
令和 3 年 4 月 1 日	静岡県立浜北特別支援学校、静岡県立浜松特別支援学校、静岡県立浜名特別支援学校の通学区域の一部を分離し、静岡県立浜松みをつくし特別支援学校開校 スクールバス 2 台減車(委託)計 3 台で運行

【参考：浜北市立養護学校の沿革】

昭和 48 年 4 月 1 日	浜北市立養護学校設置許可（浜北市全域を学区とする）
昭和 48 年 8 月 31 日	浜北市本沢合に新校舎竣工（工事期間：昭和 49 年 3 月～8 月）
昭和 48 年 9 月 10 日	旧校舎（貴布祢）より新校舎（本沢合）へ移転
昭和 52 年 10 月 6 日	運動場拡張工事完成
昭和 55 年 3 月 10 日	校舎増築工事竣工
昭和 62 年 8 月 28 日	プール落成式を挙げる
平成 17 年 4 月 1 日	学校名を「浜北市立浜北養護学校」に変更
平成 17 年 7 月 1 日	12 市町村合併により学校名が「浜松市立浜北養護学校」となる
平成 21 年 3 月 21 日	閉校式を挙げる

(2) 組織図



2 目指す学校像

(1) 教育目標

児童生徒一人一人が個性（強み）を発揮【輝き】し、仲間や地域の「人・もの・こと」との豊かな関わり【絆】を築き、達成感・喜び【感動】を積み上げる教育を通して、「地域で主体的に生き、行動し、生活し、働き、楽しむ【自立】」ことができる人を育てる。

スローガン [友と輝き 地域に生きる（自立）]		
輝き（個性（強み）の発揮）	絆（豊かな関わり）	感動（達成感・喜び）

(2) 目標具現化の柱

ア＜安全・安心＞ 守る

人権尊重を土台とした、児童生徒が心身共に健康で、安全・安心に生活できる学校

(ア) 人権を尊重しお互いを大切にし合い、笑顔に満ちあふれた学校生活を実現する。

(イ) 命を守るため、分かりやすく実地的な安全管理体制を整備し、実践力の向上を図る。

イ＜授業力・専門性＞ 育む

児童生徒のニーズと発達を踏まえ、児童生徒が主体的に学び、強みを発揮できる学校

(ア) 児童生徒が夢中になって「できる」「分かる」喜びを実感できる授業づくりを展開する。

(イ) キャリア教育を充実し、地域で生きていくための力やその基盤を培う。

ウ＜連携・協働＞ つなぐ

児童生徒と教職員が、保護者や地域との豊かな関わりを積み重ね、共生社会を目指す学校

(ア) 地域等と目標を共有するとともに、地域の資源を活用し共に教育活動を推進する。

(イ) 地域に貢献できる活動を積極的に設けるとともに、児童生徒の魅力を効果的に発信する。

エ＜チーム・信頼＞ 働きたい

「対話」を基盤とし、教職員が意欲と笑顔にあふれ、役割を果たし活躍できる学校

(ア) 心理的安全性を高め、働きやすい職場環境の充実を図る。

(イ) 業務を工夫することで、児童生徒と触れ合う時間や授業研究する時間を確保する。

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	個性を生かし 確かな成長を 感じられる教育活動を 進める	<ul style="list-style-type: none"> 「教育課程の押さえ」を踏まえ、学校全体の調和を図り、学部間／学年間の系統性を実現する教育課程が編成できたと考える教員 100% 児童生徒の発達段階を把握し、学習によって身に付けた力を評価規準／基準に沿って適切に評価でき 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態を把握し適切に指導方法を選択し、教育活動が進められている。 経験や赴任期間の短い教員への支援体制や教育、情報共有のツール整備ができるとよい。 中期的な取組は、ステップや現在位置が分かると理解が深まる。 昨年と変えた部分を結果や課題を分析し、来年度の目標に活かせるとよい。

		<ul style="list-style-type: none"> る教員 100% ・児童生徒がICTを活用して自ら学習に取り組むことができたと考える教員 100% 			
イ	具体的な将来像をより明確にした地域で生きる力を培う	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の区分により児童生徒の実態を把握し、個別の教育支援計画の立案と評価に生かすことができた教員 100% ・キャリアパスポートで設定した目標を達成できた児童生徒 100% ・他学部との系統性や接続を踏まえて目標を設定し、指導できた教員 100% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりに向き・合い、自立や成長への指導や寄り添う姿があつてすばらしい。 ・児童生徒が信頼と安心感をもって学べる環境である。 ・生徒が主体となってネット販売をしたり、SNS との上手な付き合い方を学べるとよい。
ウ	お互いが人を大切に、笑顔に満ち溢れた学校生活を実現する	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を意識して自ら笑顔で挨拶ができた児童生徒、教員 100% ・重大ないじめ 0 ・居心地の良い学習集団を目指し主体的に取り組むことができた児童生徒 100% ・学校は楽しい、学校に行きたいなど学校が居場所になっていると答える児童生徒 100% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒から挨拶をしてもらうことが多くあつた。 ・いつも元気で明るい児童生徒を見かける。高等部の作業学習の製品作りでは、生徒同士で教え合ったり助け合ったりする場面があり、学校の風土や雰囲気として感じとることができる。 ・学校集団に最も大切な笑顔で生活することができている。
エ	明確で実際的な危機管理・安全体制を整備する	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルを活用し、主体的に行動できた教職員 100% ・医療的ケアを含め、ヒヤリハットの活用による重大な事故 0 ・自分の命や健康を自分で守るための取組ができた児童生徒 100% ・通学途上の事故 0 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日常に起こる危機に備える危機管理も大災害に備える危機管理も用意周到であると思われる。 ・大規模災害発生時の役割分担は、様々な状況を想定して考えられるとよい。 ・避難訓練と合わせて、本部訓練を行うとよい。災害発生から刻々と変化する被災やこんらんの想定を置き、本部がタイムライン上で判断や指揮を執る実践的な訓練である。

オ	地域とネットワークでつながり、共生社会の実現を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域等の「人・もの・こと」とつながる取組を実現した学年／学部 100% ・ けやき祭の再開 ・ 双方の成長を促した交流活動ができたと考える教員 100% ・ 児童生徒のニーズを的確に把握し、課題解決に向けて関係機関と連携できたと考える教員 100% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共生社会を実現しようという基本姿勢で地域と連携しようとしている。 ・ 共生社会の実現を目指すために学校間交流は大切な時間である。ぜひ続けてほしい。 ・ けやき祭の開催はよかった。地域とのつながりも非常にあったと思った。 ・ 保護者に参加しやすい地域の活動や関わりについて意見をもらってもよいのではないか。
カ	業務上の役割を果たし、貢献するとともに、業務の効率化を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自信と根拠を持って業務に取り組むことができた教員 100% ・ 所属部署内／所属部署間が協働することで、本校で働くことができて良かったと感じる教職員 100% ・ 不祥事 0 ・ 年間の時間外勤務 360 時間以内 100% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「本校に所属できてよかった」と感じる教職員を増やすことが学校全体の発展と児童生徒の満足感につながると思う。 ・ 業務の効率化は、業務を整理し取り組んだことはすばらしい。 ・ 働き方や業務の改革は、教職員の自主性や意識とともに、トップダウンが必要である。何に時間や負担がどのくらいかかり、どのくらい減らすのか、テーマや目標設定をするとよい。 ・ ペーパーレス化や印鑑レス化に取り組んではどうか。

(2) 令和7年度の取組目標・達成方法・成果目標

※ゴシック体で表記された項目は令和7年度の重点項目

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア 安全・安心 (守る)	人権を尊重し合い、笑顔あふれる学校生活の実現	・ 児童生徒の成長・発達を支える生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の心を捉えた声掛け、励まし、称賛、対話を心掛けている教員 100% ・ 相手を意識して自ら笑顔で挨拶や感謝の言葉を伝える児童生徒、教員 100% 	各学部 生徒指導課
		・ 道徳指導の充実 ・ お互いを認め合い、協力し合う学級・学年づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重大ないじめ 0 ・ 「学校は楽しい」「学校に行きたい」と答える児童生徒 100% 	各学部 生徒指導課 学習指導課
		・ 児童生徒が安心して学べる学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒にとって分かりやすく活動しやすい学習の場となるように校内、教室内の整理整頓をしている教員 100% ・ 確実な安全点検と迅速な対応をしている教職員 100% 	各学部 (学年・学級) 総務課 防災課

	命を守る、実質的な安全体制の整備と実践力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・より実質的な危機管理マニュアルの更新による防犯/防災・減災/安全体制づくり ・関係機関や地域と連携した実質的な訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・発災時、緊急時の自分の動きを具体的に想定できる教職員 100% ・医療的ケアを含むヒヤリハットの活用による重大な事故 0 	防災課 保健体育課 生徒指導課 各学部 事務部
		<ul style="list-style-type: none"> ・体験的に取り組む、防災・健康・安全教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の命や健康を自分で守るための取組ができた児童生徒 100% ・通学途上の事故 0 	
イ 授業力・専門性 (育む)	児童生徒が夢中になって「できる」「分かる」喜びを実感できる授業づくりの展開	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づき12年間のつながりがある教育課程の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の調和を図り、学部間/学年間の系統性を実現する教育課程が整理できたと考える教員 100% 	教務課 自立活動課 学習指導課 研修課 情報教育課 保健体育課 各学部 (学年・学級)
		<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画に基づいた指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動(「時間の指導」「各教科等を合わせた指導」)の充実を図ることができたと考えられる教員 100% ・PDCA サイクルを生かした授業を実践できた教員 100% 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・教員の専門性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「対話」をとおして学び合い授業づくりや生徒指導に生かした学年・グループ 100% ・校内・校外研修の学びを授業づくりに生かした教員 100% 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学びを促進するICT活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒がICTを活用して自ら学習に取り組むことができたと考えられる教員 100% 	
	地域で生きていくための力やその基盤を培うキャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画に基づき児童生徒に役割を持たせた主体的な教育活動の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が授業・行事等で役割をもって強みを発揮できる取組の場を設定できた学年、グループ 100% 	進路指導課 各学部 (学年・学級)
		<ul style="list-style-type: none"> ・学部間交流の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・他学部の教育活動を知ることができた教員 100% (参加者自身の体験、参加者の報告から) 	
ウ 連携・協働 (つなぐ)	地域等と目標を共有し地域資源を活用した教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会による学校応援体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会からの助言、支援を共通理解している教職員 100% 	各学部 学習指導課 進路指導課 特別支援課 情報教育課 総務課 管理職
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を生かし、絆を深める教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域等の「人・もの・こと」とつながる取組を実現した学部 100% 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校間及び、「交流籍」を活用した交流及び共同学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・双方の成長を促した交流活動ができたと考えられる教員、保護者、交流先各校 100% 	
	地域へ貢献できる活動の設定と児童生徒の魅力の効果的な発信	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域から肯定的に評価される活動が設定できた学部 100% 	

		<ul style="list-style-type: none"> Instagram 等を活用した効果的な広報、発信の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 発信相手（保護者、地域の方）を意識し、魅力ポイントを明確にした内容を発信することができた学年、グループ 100% 	
エ チ ー ム ・ 信 頼 (働 き が い)	働きやすい職場環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> 共感・安心感を得る場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 対話をとおして相互理解や安心感が得られた教員 100% 所属部署内／所属部署間でお互いを認め合い、助け合いができた教職員 100% 	各学部 (学年・学級) 各分掌 職員安全衛生 委員会 管理職 事務部
		<ul style="list-style-type: none"> 不祥事根絶への取組の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 不祥事 0 	
	児童生徒と触れ合う時間や授業研究の時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な自己研修、事務処理時間の設定 	<ul style="list-style-type: none"> タイムマネジメントができた教職員 100% 勤務時間内に授業づくりや事務処理の時間が確保できた教員 100% 	
		<ul style="list-style-type: none"> 会議資料の事前準備と運営の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 設定時間内に終了した会議 100% 	

4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取 組 概 要	成 果 及 び 課 題
6	<p>1 個性を生かし確かな成長を感じられる教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 「教育課程の押さえ」を踏まえ学校全体の調和を図り、学部間/学年間の系統性を実現する教育課程の編成（月に1回カリキュラムマネジメント推進委員会の開催） 児童生徒の発達段階を的確に把握し評価規準/基準に沿って適切に評価する為の実践 <p>2 安心で安全な学校体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権意識の向上 自他を大切にす生徒指導 災害時に備えた安全点検の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領や「教育課程の押さえ（令和4年度作成）」をもとに、各学部で学年間の学習の積み重ねや系統性の視点で年間指導計画の改善を図った。 学部主事と学年主任を中心に教育課程を見直すカリキュラムマネジメント推進委員会に加え、全職員で各教科等の学習内容を検討した。 学習会やコンサルテーションを通して、実態把握や評価規準/基準について学ぶとともに、グループワークで評価規準をもとに学習評価について話し合いを行った。児童生徒の確かな成長のために、話し合いで出された意見を取り入れ、授業改善を行った。 人権研修や自分の言動について振り返る機会を設け、人権意識の向上を図った。 生活アンケートやいじめアンケートを実施し、児童生徒の様子を把握し、丁寧な聞き取りや個に応じた対応を行った。 全学部で児童生徒の実態に応じた方法で挨拶運動を実施するとともに、教職員自身も気持ちの良い挨拶を心掛けた。 破損個所がないかを確認するとともに、高い

6	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な防災訓練と危機管理マニュアルの見直し <p>3 地域との連携と共生社会の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を生かし、絆を深める教育活動の実践 ・共生社会の担い手を目指す学校間交流 ・効果的な支援会議の実施 ・センター的機能としての役割 <p>4 業務改善と授業づくりの時間の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートをもとにした業務の見直し ・協働体制による業務の効率化 	<p>位置に重い物が置いてないか、棚や机は固定されているか等防災の視点も取り入れ、月に1回、教室等の安全点検を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に備え、校舎内の長机やつい立などを固定した。 ・災害時に児童生徒が落ち着いて行動できるように、あらゆる場面を想定して、防災訓練を計画的に実施した。 ・より活用しやすいものにしていくために、避難訓練後に危機管理マニュアルの見直しを行った。 ・小学部では、挨拶運動や学校間交流の機会に地域ボランティア（ケヤキの会）の方々と一緒に活動し、交流を深めた。 ・中学部では、地域の方々と花の苗の植え付けや野菜の栽培、収穫等をとおして交流した。 ・高等部では、本校の魅力を発信するために地域の方々を招いた販売会のチラシ配布や宣伝活動を行った。 ・小学部では、ビデオレターでのやり取りや各学年で直接交流を行い、児童の生き生きとした姿が見られた。 ・中学部では、音楽交流を行った。互いの良さを実感する機会となった。 ・高等部では、作業製品の展示や清掃活動をとおして交流を深めた。 ・児童生徒の支援ニーズの実現や保護者の困り感の解決に向けて、関係機関と連携した支援会議に取り組んだ。 ・コーディネーターが地域の学校を訪問し児童生徒の観察や支援方法の助言を行った。 ・全職員対象に行った業務改善アンケートから、業務内容を整理した。改善方法を管理職、各学部、学年、分掌で検討し、休憩時間と授業づくりの時間を確保した。 ・放課後に、授業の話し合いや児童生徒の指導支援について検討をする時間を確保するために、日課の見直しを行った。 ・19時退勤が定着し、各個人がタイムマネジメントを行い、効率的に業務を遂行しようという意識が高まった。 ・分掌同士が連携して業務にあたることで効率化を図った。
---	---	---

年度	取 組 概 要	進捗状況
7	<p>1 安心で安全な学校体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権意識の向上 ・自他を大切にする生徒指導 <p>・災害時に備えた安全点検の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的な防災訓練 <p>2 児童生徒が主体的に学び、喜びを実感できる教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12年間のつながりある教育課程の整理（年5回のカリキュラムマネジメント推進委員会の開催） ・児童生徒の姿をもとに PDCA サイクルを活かした授業実践 <p>3 地域との連携と共生社会の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用した教育活動の実践 <p>・地域へ貢献できる活動の設定と魅力の発信</p> <p>4 働きやすい職場環境づくりと授業研究の時間の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話をもとにした心理的安全性の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権研修や自分の言動について振り返る機会を定期的に設け、人権意識を高めている。 ・日常生活の指導の中で、道徳の指導を行い、自他を大切にする心を育む教育活動に取り組む。 ・学部を超えた児童生徒同士の関わりを意識した挨拶運動を実施している。 ・安全点検の観点を具体的に示し、物の置き場や固定についても確実に点検するようにしている。（月1回） ・地域住民とマンホールトイレの設置訓練を計画した。災害時の備えと協力体制の必要性を確認している。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づき12年間の学習の積み重ねや系統性について検討を進めている。 ・「対話」とおして授業づくりや児童生徒の指導、支援について検討し、専門性の向上を目指している。 ・研究授業やコンサルテーションにおいて、児童生徒の姿から学習評価をし、グループワークとおして授業改善を図っていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・運動会やけやき祭などの行事に地域の方々の協力を得て実施していく。 ・挨拶運動や作業学習に地域ボランティアとして参加していただき、交流を深めていく。 ・地域で販売会を実施したり、学校所在地の防災について学んだりする機会を得る。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習発表会や製品販売会、地域清掃活動を設定し、実践を進める。 ・インスタグラムを活用して、学校や児童生徒の魅力ポイントを明確にした内容を発信していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・相互理解や精神的ゆとりを得ることができるよう、対話をする時間やメンタルヘルスケアを行う時間を設ける。 ・必要に応じて、人財サポート職員による面談を実施する。 ・会議時間の見直しにより、休憩時間と授業づ

<ul style="list-style-type: none"> ・会議の持ち方の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> くりの時間を確保する。 ・会議資料の事前配布や紙面会議等やり方を工夫するとともに、設定時間内に会議を終了するようにしていく。 ・毎週水曜日を定時退勤日とし、17時30分の完全施錠を定着させる。
--	--

5 教職員について

(1) 令和6年度異動状況

職名 区分	本 務 職 員												臨時・会計年度任用職員							合 計				
	教 育 職 員						行 政 職 員						本 務 計	教 諭 (任)	教 諭 (臨)	医 療 的 ケ ア 看 護 職 員	非 常 勤 嘱 託 員	非 常 勤 労 務 職 員	就 労 促 進 専 門 員		校 医 等	臨 時 計		
	校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	栄 養 教 諭	小 計	事 務 長	主 査	主 任	主 事	主 任 技 能 員											小 計	
転出者		1		14			15		1				1	16	4								4	20
退職者				3	1		4							4	1	6	1	1				1	10	14
再任用 (転出・退職)				2			2							2										2
転入者		1		15			16		1				1	17										17
新任者				4			4							4		5	1	1				1	8	12
再任用 (新任)				1	1		2							2										2
差引増減				1			1							1	-5	-1							-6	-5

(2) 現 員 数

(令和7年10月31日現在)

職名	本 務 職 員												臨時・会計年度任用職員							合 計			
	教 育 職 員						行 政 職 員						本 務 計	教 諭 (任)	教 諭 (臨)	非 常 勤 講 師	医 療 的 ケ ア 看 護 職 員	非 常 勤 嘱 託 員	非 常 勤 労 務 職 員		就 労 促 進 専 門 員	校 医 等	臨 時 計
	校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	栄 養 教 諭	小 計	事 務 長	主 査	主 任	技 能 長	小 計											
	1	1	1	117	2	1	123	1	2	1	1	5	128	5	20	8	5	7	7	1	7	60	188

(3) 健康管理について

ア 令和6年度

(7) 結核健診・生活習慣病検診・指定年齢健診・人間ドック・婦人科検診・脳ドックなど適切な健康診断の受診を勧め、疾病の早期発見に努めた。

(4) 定期健康診断を完全実施し、要精密者に対して再検査の受診を促した。その結果、対象

者全員が再検査を受け、区分が確定した。

- (ウ) 健康管理医による事後措置区分の結果を受けて、職員安全衛生委員会で取り上げ、職員の健康状態を把握した。
- (エ) 日常の健康管理については、特に腰痛予防に配慮するよう自己管理を促した。
- (オ) 職員安全衛生委員会を年 12 回開催し、職員の健康管理や職場の環境改善等について協議した。なお、毎週水曜日を定時退勤日として 17 時半施錠を実施した。

内 容	実 施 回 数 等
仕事の効率アップ対策	学校全体で取り組んだ。
腰痛予防講座への参加	1 月に 1 回実施した。
メンタルヘルス対策	毎週末掲示板で呼びかけ

- (カ) 教職員サポートルーム指定面談を原則採用 2 年目教員と今年度本校に移動してきた教職員 20 人を対象として 7 月と 11 月に実施した。該当者一人につき 1 時間程度の面談であったが、効果的な面談となった。

イ 令和 7 年度

- (ア) 結核健診・生活習慣病検診・指定年齢健診・人間ドック・婦人科検診・脳ドックなど、適切な健康診断の受診を勧め、疾病の早期発見に努めている。
- (イ) 定期健康診断の完全実施を目指すとともに要精密者に対して再検査の受診を促す。
- (ウ) 健康管理医による事後措置区分の結果を受けて、職員安全衛生委員会で取り上げ、職員の健康状態を把握する。
- (エ) 日常の健康管理については、特に腰痛予防に配慮するよう自己管理を促している。
- (オ) 職員安全衛生委員会を年 12 回予定し、10 月までに 7 回開催した。職員の健康管理や職場の環境改善等について協議している。なお 11 月以降、5 回開催を予定している。毎週水曜日を定時退勤日として 17 時半完全施錠を実施している。

内 容	実 施 回 数 等
仕事の効率アップ対策	学校全体で取り組む。
腰痛予防講座への参加	1 月に 1 回実施予定
メンタルヘルス講座への参加	8 月に 1 回実施予定

- (カ) 教職員サポートルーム指定面談を、採用 2 年目と今年度本校に異動してきた教職員及び初めて分掌課長を担う職員 15 人を対象として令和 7 年度中に実施する。該当者一人につき 40 分から 60 分程度の面談で、効果的な面談となるように計画する。

(4) 教職員の研修について

ア 令和 6 年度

目 的	成 果 と 課 題
(ア) 授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の窓口を前年度から継続して国語科、算数科、数学科、自立活動（個別の課題）とし、単元カードや実態把握ツールを活用して、評価規準と評価基準を設定した単元構想と学習評価を行った。 ・外部助言者によるコンサルテーションを行い、授業実践についての指導助言を得て、授業のブラッシュアップを図った。 ・講演会を年 2 回実施。スーパーバイザー（山元薫准教授）

<p>(イ) 専門性の向上</p>	<p>を招聘し「国語、算数・数学科の授業づくり」について学びを深めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はごろも『夢』講演会を1回実施し、NPO法人支援機器普及促進協会の高松崇氏を招聘して「授業場面を想定した情報機器の活用と演習」について研修をし、実践に活かした。 ・昨年度から継続して、PT、OT、STによる自立活動講座、作業学習における陶芸や革工芸の専門家等を招聘し、指導に活かした。 ・指導医を講師に招き、医療的ケアに関する専門的知識や児童生徒の体や障害の特徴について学び、安全な医療的ケアを実施した。
<p>(ウ) 危機管理意識の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員悉皆での人権研修を実施し、人権意識の向上を図った。 ・緊急時対応マニュアルの読み合わせや、ハリーコール訓練 下校時緊急時対応訓練（図上）で緊急時の対応への意識を高めた。
<p>(エ) 不祥事根絶研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にコンプライアンス通信等を活用して不祥事根絶を校内掲示板で呼び掛けると同時に、夕礼での注意喚起を行った。 ・6月から7月が不祥事根絶推進月間であることを受け、コンプライアンス通信等を活用し、全職員での共通理解を図った。加えて夏季休業に向け、綱紀の厳正保持及び交通安全意識の徹底を呼び掛けた。特に飲酒運転に関連し、アルコールチェックの徹底を確認した。 ・本校において不祥事はゼロであった。

イ 令和7年度

目 的	内 容
<p>(ア) 授業力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修テーマを「児童生徒が主体的に学びに向かう姿を引き出し、『できる』『わかる』を実感できる授業実践～児童生徒の姿から始める授業づくり～」と掲げ、窓口を「各教科等を合わせた指導」、「自立活動（集団の授業）」とする。 ・教員同士の各学年、作業班、グループなどで児童生徒の姿をもとに対話を重ね、PDCAでの授業づくりに取り組む。 ・授業開始時に単元カードに評価規準と評価基準を明記して、学習評価を行う。 ・外部助言者によるコンサルテーションを行い、指導助言を得ながら授業づくりや授業改善に取り組む。 ・講演会を実施。静岡大学山元薫准教授を招聘し、「主体的に学びに向かうための授業づくり」というテーマのもと、「各教科等を合わせた指導」についての理解を深める。
<p>(イ) 専門性の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PT、OT、STによる自立活動講座、作業学習における陶芸や革工芸の専門家等を招聘し、指導に必要な専門的知識技能を継続的に学ぶ。

(ウ)危機管理意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招き、摂食指導や姿勢、呼吸について学ぶ。 ・医療的ケアに関する専門的知識、児童生徒の障害の特徴について指導医から学ぶ。 ・全職員悉皆での人権研修（アサーティブコミュニケーション）を実施し、お互いを尊重する意識を高める。 ・緊急時対応訓練やハリーコール訓練、計画的な防災訓練を実施し、緊急時や災害時の対応への意識を高める。
(エ)不祥事根絶研修	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にコンプライアンス通信等を活用して不祥事根絶を校内掲示板で呼び掛けると同時に、夕礼での注意喚起を行っている。 ・奇数月にコンプライアンスについて学年で話し合う場を設け、意識を高めている。 ・長期休業前に、綱紀の厳正保持及び交通安全意識の徹底を呼び掛けている。

6 防災対策について

南海トラフ地震を想定し、大規模地震に備えるため、総合的な地震対策を整える。合わせて児童生徒の生命や身体の安全を確保し、施設設備の保全を図るため、下記の基本方針で取り組んでいる。多角的な視点から洪水や火災など様々な防災対策について見直し、児童生徒、教職員等が「自分の命を自分で守る」ためにどう行動すべきかを考えられるような防災教育を行ったり、わかりやすい危機管理・安全体制を整備したりすることが課題である。

- (1) 校長を総指揮とする安全対策委員会を設置し、防災体制に関して改善を図る。
- (2) 浜松市地域防災計画における本校の役割について確認し、浜松市危機管理課との連携を密にする。
- (3) 学校防災計画の保護者への周知徹底を図る。緊急時の連絡方法を検討する。
- (4) 非常防災設備の定期点検を行う。
- (5) 児童生徒の生命や身体の安全確保を図るため、状況に応じた避難誘導対策を十分に検討し、日頃から訓練を積み重ねる。児童生徒の在校時における南海トラフ臨時地震情報の発令状況を想定した防災避難訓練を計画的に実施する。
- (6) 浜松市と連携し、障害者や老人等、災害弱者のための福祉避難所としての開設を準備する。

ア 令和6年度

(ア) 目 標

- ・学校安全計画に基づき、「自分の命を自分で守る」ことができる児童生徒を育てるための防災教育の充実を図る。
- ・児童生徒と教職員が主体的に行動できるよう危機管理・安全体制を整備する。
- ・様々な災害時の対応について児童生徒、教職員、保護者、地域、関係機関で共通理解を図り、明確で実地的な防災・防犯体制をつくる。

(イ) 実施内容

実施日	想 定	訓 練 内 容	対 象 者
6.5.1	発災	安否確認訓練	児童生徒 教職員 保護者
6.5.28	地震（シェイクアウト訓練）	一次避難の確認 起震車体験 防災講話	児童生徒 教職員

6.6.25	洪水	避難経路、避難教室の確認	児童生徒 教職員
6.8.30	発災	マンホールトイレの設置訓練	教職員
6.9.3	発災	非常食体験 寝袋体験 児童生徒引き渡し訓練	児童生徒 教職員 保護者
6.11.5	火災	避難経路の確認 火災報知機を使用した訓練 煙学習	児童生徒 教職員

(ウ) 成果と課題

防災教育の充実では、「自分の命を自分で守る」ための授業を避難訓練の事前と事後で学習を行った。安全教育で使える災害時の動画や写真、パワーポイントなどを防災課より提案し、各学部で児童生徒の実態に合わせて工夫して指導することができた。

危機管理・安全体制を整備では、様々な災害責任者をつくったり、夏季防災研修で発災時での各班の役割を確認したりしたことで、細かな役割や動きを一人ひとりが主体的に考えることができた。研修や防災訓練から得られた意見を聞いて危機管理マニュアルへ反映することができた。

また、反省する時間を設け、同じ災害の避難訓練をシェイクアウト訓練と集合訓練を近い日付で行うようにしてすぐに改善できるようにしたことで、課題を洗い出し、改善につなげることができた。

イ 令和7年度

(ア) 目標

- ・児童生徒と教職員が主体的に行動できるよう危機管理・安全体制を整備する。
- ・学校安全計画に基づき、「自分の命や健康を自分で守る」ための防災・安全教育の充実を図る。
- ・様々な災害時の対応について児童生徒、教職員、保護者、地域、関係機関で連携を図り、明確で実地的な防災・防犯体制をつくる。

(イ) 実施内容

実施日	想定	訓練内容	対象者
7.5.15	地震	シェイクアウト訓練	児童生徒 教職員
7.6.9	発災	非常食体験 寝袋体験 児童生徒引き渡し訓練	児童生徒 教職員 保護者
7.6.24	洪水	避難経路、避難教室の確認	児童生徒 教職員
7.8.29	発災	マンホールトイレ設置訓練	教職員 地域住民
7.9.3	発災	防災学習 防災講話	児童生徒
7.11.5	火災	避難経路、避難方法の確認 火災報知機を使用した訓練 煙学習	児童生徒 教職員

(ウ) 進捗状況

地震発生を想定したシェイクアウト訓練では、児童生徒および教職員を対象に行い、初動対応の確認を図った。発災時を想定した非常食体験・寝袋体験・児童生徒引き渡し

訓練では、児童生徒・教職員・保護者が協力して避難時の一連の流れを確認することができた。また、今年度初めての取組として、教職員および地域住民を対象としてマンホールトイレの設置訓練を行った。地域住民ともに、避難所としての機能を考え、地域と連携した防災対応力の向上に努めた。

火災を想定した避難訓練では、避難経路・避難方法の確認、火災報知機を使用した訓練、煙体験学習を実施し、災害発生時に迅速かつ安全に行動できる体制の整備を進めている。

7 学校開放について

地域に開かれ地域と連携のできる学校となるため、教育活動に支障のない範囲で施設の開放を行っている。

令和6年4月1日から令和7年10月31日までの開放実績

番号	利用団体名	利用目的	利用回数 (回)	利用人数 (延人数)	利用者負担金 (円)
1	F.C. フォルミーガ	少年サッカー	21	1,480	0
2	一般社団法人アレスグ ート	障害児スポーツ教 室	19	340	4,712
3	子育てセンターしばも と	こども園運動会	6	946	0
4	コアラの会	障害児親子学習会	7	160	3,968
5	浜北北部サッカークラ ブ	サッカー練習	30	30	0
計			83	2,956	8,680

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
1 学校教育に関する こと	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第72条、第73条、第74条、第76条、第77条、第81条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 学校給食法（第4条） 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律（第3条） いじめ防止対策推進法（第8条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学支援委員会規則 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校高等部学習指導要領
2 学校の管理・運営 に関すること	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第2条、第3条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護児童生徒援助費補助金交付要綱 要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補助金交付要綱 静岡県情報公開条例施行規則 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第16条、第17条） 社会教育法（第43条、第45条、第47条、第48条）

学 校 施 設 の 概 要

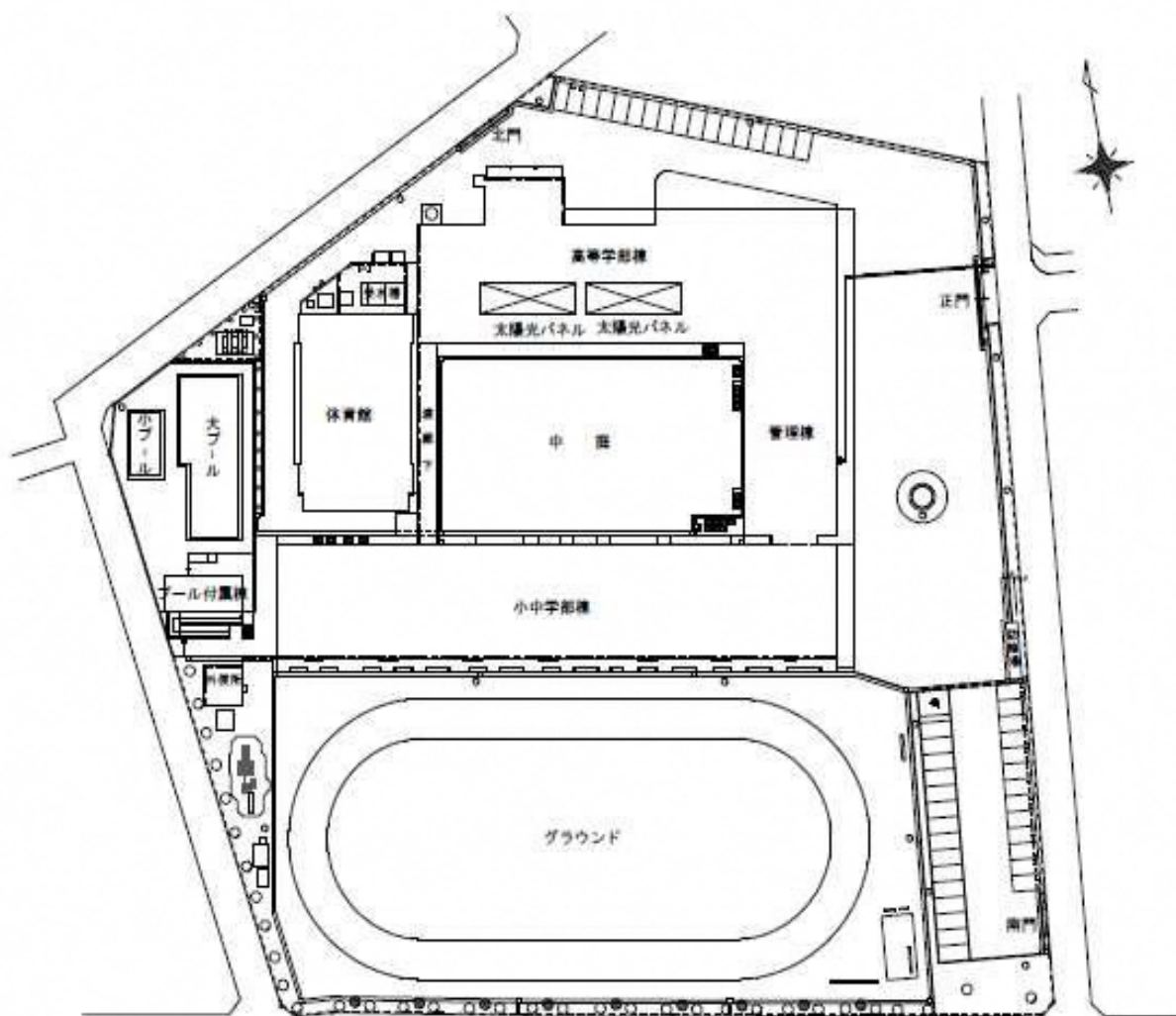
1 面積及び所有区分

(令和7年10月31日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地	18,001.20	18,001.20					
内 訳	校 舎 敷 地	13,070.00	13,070.00				
	運 動 場 敷 地	4,931.20	4,931.20				
	そ の 他 の 敷 地						
校 舎	建 3,919.07	3,919.07					
	延 6,929.55	6,929.55					
体 育 館	建 559.52	559.52					
	延 549.85	549.85					
そ の 他 の 建 物	建 198.49	198.49					
	延 103.99	103.99					
プ ー ル	2 個	2 個					大25m×8m 5コース 小10m×5m

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	18,001.20 m ²	6,929.55 m ²	4,931.20 m ²
県平均	19,266.88 m ²	6,361.36 m ²	5,302.07 m ²

在 籍 生 徒 調

(小学部)

(令和7年10月31日現在)

学年	区分	定員	男子	女子	計
1年	入学者	—	18	7	25
	增加				
	減少				
	現 在		18	7	25
2年	入学者	—	9	4	13
	增加				
	減少				
	2年時当初		9	4	13
	增加				
	減少				
	現 在		9	4	13
3年	入学者	—	17	9	26
	增加				
	減少				
	2年時当初		17	9	26
	增加			2	2
	減少				
	3年時当初		17	11	28
	增加		1		1
	減少		1		1
	現 在		17	11	28
4年	入学者	—	20	2	22
	增加				
	減少				
	2年時当初		20	2	22
	增加				
	減少				
	3年時当初		20	2	22
	增加		2		2
	減少		2		2
	4年時当初		20	2	22
	增加				
	減少				
	現 在		20	2	22

学年	区分	定員	男子	女子	計
5年	入学者	—	10	4	14
	增加				
	減少				
	2年時当初		10	4	14
	增加				
	減少				
	3年時当初		10	4	14
	增加		2		2
	減少				
	4年時当初		12	4	16
	增加			1	1
	減少				
	5年時当初		12	5	17
	增加				
減少					
現 在		12	5	17	
6年	入学者	—	20	4	24
	增加				
	減少		9	2	11
	2年時当初		11	2	13
	增加		1		1
	減少				
	3年時当初		12	2	14
	增加		2		2
	減少		1		1
	4年時当初		13	2	15
	增加				
	減少				
	5年時当初		13	2	15
	增加				
減少					
6年時当初		13	2	15	
增加					
減少					
現 在		13	2	15	
小学部計		—	89	31	120

在 籍 生 徒 調

(中学部)

学年	区 分	定員	男子	女子	計
1年	入学者	—	16	6	22
	増加				
	減少				
	現 在		16	6	22
2年	入学者	—	18	8	26
	増加				
	減少		1		1
	2年時当初		17	8	25
	増加				
	減少				
	現 在		17	8	25
3年	入学者	—	13	7	20
	増加				
	減少		1		1
	2年時当初		12	7	19
	増加		1	1	2
	減少				
	3年時当初		13	8	21
	増加				
	減少				
	現 在		13	8	21
中学部計		—	46	22	68

(高等部)

(令和7年10月31日現在)

学年	区 分	定員	男子	女子	計
1年	入学者	36	18	10	28
	増加				
	減少				
	現 在		18	10	28
2年	入学者	45	28	17	45
	増加				
	減少				
	2年時当初		28	17	45
	増加				
	減少				
	現 在		28	17	45
3年	入学者	33	16	13	29
	増加				
	減少		1		1
	2年時当初		15	13	28
	増加				
	減少		1		1
	3年時当初		14	13	27
	増加				
	減少				
	現 在		14	13	27
高等部計		114	60	40	100

入学志願者及び入学者数調

区 分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学 科 別		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
生徒定員 (A)		36	42	33	54	36
募集者数 (B)		36	42	33	54	36
志願者数	男	21 (0)	25 (0)	16 (0)	28 (0)	18 (0)
	女	11 (0)	8 (0)	13 (0)	17 (0)	10 (0)
	計(C)	32 (0)	33 (0)	29 (0)	45 (0)	28 (0)
受検者数	男	21 (0)	25 (0)	16 (0)	28 (0)	18 (0)
	女	11 (0)	8 (0)	13 (0)	17 (0)	10 (0)
	計(D)	32 (0)	33 (0)	29 (0)	45 (0)	28 (0)
合格者数	男	21 (0)	25 (0)	16 (0)	28 (0)	18 (0)
	女	11 (0)	8 (0)	13 (0)	17 (0)	10 (0)
	計(E)	32 (0)	33 (0)	29 (0)	45 (0)	28 (0)
志願倍率 (C)/(B)		0.89	0.79	0.87	0.83	0.78
受検倍率 (D)/(B)		0.89	0.79	0.87	0.83	0.78
入学者数	男	21	25	16	28	18
	女	11	8	13	17	10
	計 (F)	32	33	29	45	28
充足率 (F)/(A)		0.89	0.79	0.87	0.83	0.78

卒業生の動向調

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				
	定時制				
	通信制				
特別支援学校高等部		17			17
その他高等学校等					
大学等	大学(学部)				
	短期大学(本科)				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校(専門課程)					
専修学校(一般課程)・各種学校					
公共職業能力開発施設等					
就 職			5		5
上 記 以 外 ※		2	28		30
不 詳 ・ 死 亡					
計 (卒業者総数)		19	33		52

(再掲) 「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設					
障害者支援施設		1	25		26
(うち就労系支援事業利用者)		()	(17)	()	(17)
医療機関					
在宅		1	3		4
計		2	28		30

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和7年10月31日現在) (単位:人)

市町名	浜松市	磐田市	その他	合計
生徒数	273	15		288
構成比%	94.8%	5.2%		100%

(2) 通学方法 (令和7年10月31日現在) (単位:人)

区分	スクールバス	保護者送迎			自主通学			合計
		徒歩	自家用車	公共機関	徒歩	自転車	公共機関	
生徒数	101	3	115	0	6	11	52	288
構成比%	35.1%	1.0%	39.9%	0.0%	2.1%	3.8%	18.1%	100%

2 部(クラブ)の加入状況

(令和7年10月31日現在) (単位:人)

区分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		3	2		5
男子	1年	6	2	10	18
	2年	9	5	14	28
	3年	9	2	3	14
	計(A)	24	9	27	60
	構成比	40%	15%	45%	100%
女子	1年	1	4	5	10
	2年	1	7	9	17
	3年	4	4	5	13
	計(B)	6	15	19	40
	構成比	15%	37.5%	47.5%	100%
(A+B)		30	24	46	100
合計	構成比	30%	24%	46%	100%

3 障害別児童生徒数 (令和7年10月31日現在) (単位:人)

区 分		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合 計	学級数
小学部	単一障害	12	7	11	11	12	8	61	12
	重複障害	11	5	11	7	5	3	42	14
	肢体重複	2	1	6	4	0	4	17	8
	合計	25	13	28	22	17	15	120	34
中学部	単一障害	11	9	13				33	7
	重複障害	9	8	3				20	7
	肢体重複	2	8	5				15	6
	合計	22	25	21				68	20
高等部	単一障害	22	38	22				82	11
	重複障害	3	3	2				8	3
	肢体重複	3	4	3				10	4
	合計	28	45	27				100	18

4 起因疾患別児童生徒数

(令和7年10月31日現在) (単位:人)

区 分	知的障害	自閉症スペクトラム	染色体異常	脳性麻痺	その他の疾患	計
小学部	11	67	19	9	14	120
中学部	8	33	8	13	6	68
高等部	36	36	13	8	7	100
計	55	136	40	30	27	288

特別支援学校における生産物売払調

令和7年度

(令和7年10月31日現在)

主な生産品目				
7 年 度	なし			
	<table border="1"> <tr> <td>① 売払金額</td> <td>0 円</td> <td>②前年度との差額</td> <td>△360,800 円</td> </tr> </table>	① 売払金額	0 円	②前年度との差額
① 売払金額	0 円	②前年度との差額	△360,800 円	
前 年 度	<p><陶芸品> 箸置き、丸皿、平皿、角皿、植木鉢、ビアマグ、湯のみ、井</p> <p><木工製品> コースター、鍋敷き、ウッドバインダー、カッティングボード、ペン立て、小物入れ、ランチバック、ランチクロス、ばねポーチ</p> <p><縫製品> トートバッグ、巾着、ヘアアクセサリ、マスクケース、カードケース、サコッシュ、マウスパッド、袱紗、名刺入れ</p> <p><革工芸品> トレイ、ベルトキーホルダー、ストラップ、髪留め、コードクリップ、カードケース、コインケース、ペンケース</p> <p><手工芸品> 小物入れ、カトラリーケース、スマホストラップ、キーホルダー、靴ひも、飾り紐</p> <p><園芸品> 花の苗、サシェ</p>			

	① 売払金額	360,800 円	② 前年度との差額	93,850 円
前々年度	<陶芸品> 平皿、デザイン皿、小鉢、湯飲み、ビアマグ、丼 <木工製品> コースター、鍋敷き、ウッドバインダー、カッティングボード マグネット、トレイ <縫製品> ハンカチ、エコバッグ、ランチバッグ、ミニポーチ、ティッシュボックス カバー <革工芸品> ベルトキーホルダー、トレー、ストラップ、キーケース、コードクリップ、 名札、コインカードケース、オーダーストラップ <園芸品> サシェ、花の苗 <紙工芸品> メッセージカード封筒付き <手工芸品> 小物入れ、マルチボタン、油拭き取りパック			
	① 売払金額	266,950 円	② 前年度との差額	29,050 円

* 過去3年分を記載すること。

預 金 調

(令和7年度)
(令和7年10月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高 (円)	摘要
静岡銀行 小林支店	無利息型 普通預金	0428991	静岡県立浜北特別支援学校 資金前渡者 八幡正信	5,000	給与・交際費等
静岡銀行 小林支店	無利息型 普通預金	0429143	(自振口) 静岡県立浜北特別支援学校 資金前渡者 八幡正信	0	公共料金等引落
浜松磐田信用金庫 於呂支店	無利息型 普通預金	2143329	静岡県立浜北特別支援学校 奨励費代理受領者 校長 八幡正信	0	就学奨励費
浜松磐田信用金庫 於呂支店	無利息型 普通預金	2144456	静岡県立浜北特別支援学校 資金前渡者 八幡正信	0	払込用
残 高 合 計				5,000	

郵 券 等 受 払 調

(令和7年10月31日現在)

(単位:枚、円)

区分	種類	令 和 6 年 度						令 和 7 年 度						摘要			
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出			差引現在高		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額		枚数	金額	
郵券	レターバック ライト430円			1	430	1	430										公務 連絡用
	140円券									50	7,000	11	1,540	39	5,460		
	120円券	51	6,120			40	4,800	11	1,320			9	1,080	2	240		
	110円券			100	11,000	97	10,670	3	330	115	12,650	45	4,950	73	8,030		
	84円券	88	7,392	61	5,124	149	12,516										
	26円券			22	572	22	572										
	10円券	74	740			40	400	34	340			11	110	23	230		
計		/	14,252	/	17,126	/	29,388	/	1,990	/	19,650	/	7,680	/	13,960		

材 料 品 受 払 調

(令和7年10月31日現在)

区分 品名	前 年 度				本 年 度				差引現在高 金額	摘 要				
	繰 越		受 入		払 出		受 入				払 出			
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額			数量	金額		
木材	本	円	本	円	本	円	本	円	本	円	本	円		
			208	54,703	208	54,703			303	61,897	303	61,897		
陶芸用粘土	袋	円	袋	円	袋	円	袋	円	袋	円	袋	円		
			5	21,450	5	21,450			6	25,740	6	25,740		
牛革	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円		
			2	73,120	2	73,120			1	40,000	1	40,000		
布	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円		
			31	54,070	31	54,070			38	87,554	38	87,554		
布(はぎれ)	袋	円	袋	円	袋	円	袋	円	袋	円	袋	円		
									1	550	1	550		
糸	個	円	個	円	個	円	個	円	個	円	個	円		
			12	6,468	12	6,468			5	2,695	5	2,695		
計		0		209,811		209,811		0		218,436		218,436		0

(注)1 本表は、本庁所管課及び出先機関において調製する。

2 出先機関で支所等のあるものは、本所分と区分して記載する。

3 「品名」は、静岡県財産規則第11条第2項第2号に掲げる材料品受払簿に記載したものと記入する。

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節 名	会 計	款	項	目	執 行 済 額 (円)		
					令和5年度	令和6年度	左のうち、前年度からの繰越額分
(12) 委 託 料	一般会計	教 育 費	高等学校費	高等学校管理費	/	779,668	/
	一般会計	教 育 費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		62,763,398	
	一般会計	教 育 費	学校教育費	健康体育費		13,600,491	
計					57,563,650	77,143,557	0
(14) 工 請 負 事 費	一般会計	教 育 費	教育委員会費	教育管理費	/	946,000	/
計					3,351,700	946,000	0
(16) 公 有 財 産 購 入 費	一般会計	教 育 費	教育委員会費	教育管理費	/	0	/
計					69,000	0	0
(17) 備 購 入 品 費	一般会計	教 育 費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	/	2,929,300	/
計					1,531,420	2,929,300	0
(18) 負 担 金、補 助 及 び 交 付 金	一般会計	教 育 費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	/	27,500	/
計					40,700	27,500	0
(21) 補 償、補 填 及 び 賠 償 金					/	0	/
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年10月31日現在)

節 名	会 計	款	項	目	執 行 済 額 (円)	
						うち、前年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	382,661	0
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	32,050,195	0
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費	6,746,869	0
計					39,179,725	0
(14) 工請負事費						
計					0	0
(16) 公有財産購入費						
計					0	0
(17) 備購入品費	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	159,500	0
計					159,500	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	40,100	0
計					40,100	0
(21) 補償、補填及び賠償金						
計					0	0

委 託 料 に 関 す る 調

(令和6年度)

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の 内 容	摘 要
				当初額	変 更 増減額	計						
1	給食業務	(株)ミカサ	43,792,100	39,523,000	0	39,523,000	一 般	5. 8. 7 ～ 8. 7. 31		(8,800,000)	学校給食 調理・配 膳業務	R5長期
									6. 5. 31	1,100,000		
									6. 6. 28	1,100,000		
									6. 7. 31	1,100,000		
									6. 9. 2	1,100,000		
									6. 9. 30	1,100,000		
									6. 10. 31	1,100,000		
									6. 11. 29	1,100,000		
									6. 12. 26	1,100,000		
									7. 1. 31	1,100,000		
									7. 2. 28	1,100,000		
									7. 3. 31	1,100,000		
									7. 4. 30	1,100,000		
									小計	13,200,000		
2	スクール バス運行 管理業務	大新東(株) 静岡営業 所	18,914,765	15,048,000	0	15,048,000	一 般	6. 4. 1 ～ 9. 3. 31		(0)	通学・校 外活動の 送迎車両 の点検・ 管理業務 1台	R6長期
									6. 5. 31	418,000		
									6. 6. 28	418,000		
									6. 7. 31	418,000		
									6. 8. 30	418,000		
									6. 9. 30	418,000		
									6. 10. 31	418,000		
									6. 11. 29	418,000		
									6. 12. 26	418,000		
									7. 1. 31	418,000		
									7. 2. 28	418,000		
									7. 3. 31	418,000		
									7. 4. 30	418,000		
									小計	5,016,000		
3	通学バス輸 送業務	浜松バス (株)	169,676,100	169,676,100	0	169,676,100	随 契	6. 4. 1 ～ 9. 3. 31		(0)	通学・校 外活動の 送迎車両 の配車、 点検及び 管理業務 3台	R6長期 随契2号 (不適)
									6. 5. 31	4,713,225		
									6. 6. 28	4,713,225		
									6. 7. 31	4,713,225		
									6. 8. 30	4,713,225		
									6. 9. 30	4,713,225		
									6. 10. 31	4,713,225		
									6. 11. 29	4,713,225		
									6. 12. 26	4,713,225		
									7. 1. 31	4,713,225		
									7. 2. 28	4,713,225		
									7. 3. 31	4,712,225		
									7. 4. 30	4,713,225		
									小計	56,558,700		
4	エレベ ーター保守 点検業務	(株)日立ビル システム 中部支社	765,600	765,600	0	765,600	随 契	6. 4. 1 ～ 7. 3. 31	6. 5. 31	63,800	遠隔監視 及び点検 調整修理 業務	随契1号 (少額)
									6. 6. 28	63,800		
									6. 7. 31	63,800		
									6. 8. 30	63,800		
									6. 9. 30	63,800		
									6. 10. 31	63,800		
									6. 11. 29	63,800		
									6. 12. 26	63,800		
									7. 1. 31	63,800		

									7.2.28 7.3.31 7.4.30 小計	63,800 63,800 63,800 765,600		
5	可燃物収集運搬処分業務	(有)大野商会	1,427,140	収集・運搬料 1回当たり 3,410円 処分手数料 14.3円/kg	収集・運搬料 1回当たり 3,410円 処分手数料 14.3円/kg	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.26 7.1.31 7.2.28 7.3.31 7.4.30 小計	111,306 120,101 111,614 112,600 57,894 103,142 122,939 110,771 114,703 108,262 95,800 119,479 1,288,611	可燃物収集運搬処分業務	単価契約 浜名高 浜北西高	
6	産業廃棄物収集運搬処分業務	(株)リサイクルクリーン	51,700	51,700	51,700	随契	6.5.1 ～ 6.7.31	6.8.6	51,700	産業廃棄物収集運搬処分業務	随契1号 (少額)	
7	産業廃棄物収集運搬処分業務	(株)リサイクルクリーン	57,200	57,200	57,200	随契	7.1.17 ～ 7.3.31	7.3.28	57,200	産業廃棄物収集運搬処分業務	随契1号 (少額)	
8	厨房グリスラップ清掃及び産業廃棄物収集運搬処分業務	(株)太洋サービス	58,300	58,300	58,300	随契	6.9.20 ～ 6.11.29	6.11.25	58,300	グリスラップ 廃油(汚泥)収集運搬処分業務	随契1号 (少額)	
9	厨房グリスラップ清掃及び産業廃棄物収集運搬処分業務	(株)太洋サービス	58,300	58,300	58,300	随契	7.2.6 ～ 7.3.26	7.4.7	58,300	グリスラップ 廃油(汚泥)収集運搬処分業務	随契1号 (少額)	
10	産業廃棄物収集運搬処分業務	(株)太洋サービス	45,375	45,375	45,375	随契	6.12.16 ～ 7.3.14	7.3.3	45,375	産業廃棄物収集運搬処分業務(乾電池)	随契1号 (少額)	
11	産業廃棄物収集運搬処分業務	中遠環境保全(株)	43,771	43,771	43,771	随契	6.12.23 ～ 7.3.14	7.2.28	43,771	産業廃棄物収集運搬処分業務(蛍光灯)	随契1号 (少額)	
	合計	11 件							77,143,557			

整理 番号	委 託 業務名	受 託 者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の 内 容	摘 要
				当初額	変 更 増減額	計						
参 考 1	警備業務	セコム(株)		10,164,000	0	10,164,000		1. 10.1 ~ 6. 9.30			事務室等機 械警備業務	浜松工業 高
				14,256,000	0	14,256,000		6.10.1 ~ 11.9.30			事務室等機 械警備業務	浜松工業 高
参 考 2	消防用設 備等保守 点検業務	静岡県消 防設備保 守点検業 協同組合		18,810,000	0	18,810,000		6. 4. 1 ~ 7. 3.31			消防用設 備等保守 点検業 務	浜松湖北 高
参 考 3	自家用電 気工作物 保安全管理 業務	遠鉄アシ スト(株)		4,755,960	356,741	5,112,701		6. 4. 1 ~ 7. 3.31			電気工作物 保安全管理 業務	浜松城北 工業高
参 考 4	プール浄 化装置保 守点検業 務	清化工業 (株)		998,800	0	998,800		6. 4.8 ~ 6.12.27			プール浄 化装置保 守点検 業務	浜松東高
参 考 5	防鼠防虫 業務	(株)帝装 化成浜松 営業所		548,020	0	548,020		6. 4.12 ~ 7. 3.31			学校給食 施設の防 鼠防虫 業務	浜松特支
参 考 6	12 条点検	(有)山口 一級建築 士事務所		2,200,000	0	2,200,000		6.11.22 ~ 7.3.24			建築基準 法第 12 条に基 づく定 期点検 業務	浜北西高
	計	6 件										

委 託 料 に 関 す る 調

(令和7年度)

(令和7年10月31日現在)

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の 内 容	摘要
				当初額	変更 増減額	計						
1	給食業務	(株)ミカサ	円 43,792,100	円 39,523,000	円 11,528	円 39,534,528	一 般	5.8.7 ～ 8.7.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 7.9.30 7.10.31 小計	円 (22,000,000) 1,095,908 1,095,908 1,095,908 1,095,908 1,095,908 1,095,908 6,575,448	学校給食 調理・配 膳業務	R5長期
2	スクール バス運行 管理業務	大新東(株) 静岡営業 所	18,914,765	15,048,000	△223,309	14,824,691	一 般	6.4.1 ～ 9.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 7.9.30 7.10.31 小計	(5,016,000) 409,992 409,992 409,992 378,995 409,992 409,992 2,428,955	通学・校 外活動の 送迎車両 の点検・ 管理業務 1台	R6長期 ※日課変 更に伴い 減便した ため減額
3	通学バス輸 送業務	浜松バス (株)	169,676,100	169,676,100	△1,354,100	168,322,000	随 契	6.4.1 ～ 9.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 7.9.30 7.10.31 小計	(56,558,700) 4,656,300 4,656,300 4,656,300 4,656,300 4,656,300 4,656,300 27,937,800	通学・校 外活動の 送迎車両 の配車、 点検・管 理業務 3台	R6長期 随契2号 (不適) ※日課変 更に伴い 減便した ため減額
4	通学バス輸 送業務(臨 時)	浜松バス (株)	1,078,000	1,078,000	0	1,078,000	随 契	7.6.23 ～ 7.7.18	7.7.31 7.8.29 小計	323,400 754,600 1,078,000	通学・校 外活動の 送迎車両 の配車、 点検及び 管理業務 1台(臨 時)	随契2号 (不適)
4	エレベ ーター保守 点検業務	(株)日立ビル システム 中部支社	765,600	765,600	0	765,600	随 契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 7.9.30 7.10.31 小計	63,800 63,800 63,800 63,800 63,800 63,800 382,800	遠隔監視 及び点検 調整修理 業務	随契1号 (少額)
5	可燃物収 集運搬処 分業務	(有)大野 商会	1,478,620	収集・運搬料 1回当たり 3,630円 処分手数料 14.3円/kg	0	収集・運搬料 1回当たり 3,630円 処分手数料 14.3円/kg	随 契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 7.9.30 7.10.31 小計	113,996 117,530 125,064 113,679 62,421 104,002 636,692	可燃物収 集運搬処 分業務	単価契約 浜名高 浜北西高
6	産業廃棄物 収集運搬処 分業務	(株)リサイ クルクリ ーン	28,600	28,600	0	28,600	随 契	7.5.26 ～ 7.8.29	7.7.28	28,600	産業廃棄 物収集運 搬処分業 務	随契1号 (少額)

7	産業廃棄物収集運搬処分業務	(株)リサイクルクリーン	53,130	53,130	0	53,130	随契	7.6.23 ～ 7.9.30	7.10.16	53,130	産業廃棄物収集運搬処分業務	随契1号(少額)
8	厨房グリスラップ清掃及び産業廃棄物収集運搬処分業務	(株)大洋サービス	58,300	58,300	0	58,300	随契	7.7.18 ～ 7.9.19	7.8.19	58,300	グリスラップ廃油(汚泥)収集運搬処分業務	随契1号(少額)
合計		8件								39,179,725		

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
参考1	警備業務	セコム(株)	/	14,256,000	0	14,256,000	/	6.10.1 ～ 11.9.30	/	/	事務室等機械警備業務	浜松工業高
参考2	消防用設備等保守点検業務	静岡県消防設備保守点検業協同組合	/	19,250,000	0	19,250,000	/	7.4.1 ～ 8.3.31	/	/	消防用設備等保守点検業務	浜松湖北高
参考3	自家用電気工作物保安管理業務	遠鉄アシスト(株)	/	5,212,680	0	5,212,680	/	7.4.1 ～ 8.3.31	/	/	電気工作物保安管理業務	浜松城北工業高
参考4	プール浄化装置保守点検業務	清化工業(株)	/	995,500	0	995,500	/	7.4.10 ～ 7.12.26	/	/	プール浄化装置保守点検業務	浜松東高
参考5	防鼠防虫業務	(株)帝装化成浜松営業所	/	668,800	0	668,800	/	7.4.15 ～ 8.3.31	/	/	学校給食施設の防鼠防虫業務	浜松特支
計		5件										

負担金支出調

(令和6年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国特別支援学校知的障害教育校長会費	全国特別支援学校知的障害教育校長会	会則	学校の管理運営に関する調査研究	円 15,000	6.7.12
2	会議参加費	第47回全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会四国(香川)大会実行委員長	開催通知	第47回全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会四国(香川)大会	3,000	6.7.25
3	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会費	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会	規約	教育の充実・改善の推進及び教育上の調査研究	5,000	6.7.26
4	講習参加費	一般社団法人静岡県安全運転管理協会	講習通知	道路交通法による安全運転管理者等講習	4,500	6.8.21
計		4件			27,500	

負担金支出調

(令和7年度)

(令和7年10月31日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	会議参加費	第63回中部地区肢体不自由教育研究大会(長野大会)実行委員長	開催通知	第63回中部地区肢体不自由教育研究大会(長野大会)	円 3,000 3,000	7.6.25 7.9.8
2	会議参加費	第48回全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会埼玉大会実行委員長	開催通知	第48回全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会埼玉大会	3,000	7.7.10
3	全国特別支援学校知的障害教育校長会費	全国特別支援学校知的障害教育校長会会長	会則	学校の管理運営に関する調査研究	15,000	7.7.14
4	講習参加費	一般社団法人静岡県安全運転管理協会	講習通知	道路交通法による安全運転管理者等講習	5,100	7.7.31
5	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会費	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会長	規約	教育の充実・改善の推進及び教育上の調査研究	5,000	7.8.6
6	会議参加費	第49回東海地区知的障害教育研究大会	開催通知	第49回東海地区知的障害教育研究大会	6,000	7.8.15
計		6件			40,100	

建 築 工 事 調 査

(令和6年度)

整理番号	予算科目	工事名	工事箇所	当設計金額	契約金額			受注者	着手完成(予定)年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
					当初額	変更増減額	計						
1	教育管理費	令和6年度静岡県立浜北特別支援学校南門扉更新工事	浜松市浜名区西中瀬地内	946,000	0	946,000	随契ハマニ(株)	着手 7.1.15 完成 7.3.27	946,000	スタックライナー一式交換	—	種別1号(少額) 令達年月日 6.12.26 支払年月日 7.4.23	
		合計	1件	946,000	0	946,000			946,000				

建 築 工 事 調 査

(令和7年度)
(令和7年10月31日時点)

整理番号	予算科目	工事名	工事箇所	当設計金額	契約金額			受注者	着手完成(予定)年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
					当初額	変更増減額	計						
1	教育管理費	令和7年度静岡県立浜北特別支援学校電話設備更新工事	浜松市浜名区西中瀬地内	4,730,000	0	4,730,000	日興電気通信(株)	着手 7.10.6 完成(予定) 7.11.28	0	電話交換機及び多機能電話機交換	—	令達年月日 7.9.18 支払年月日 —	
		合計	1件	4,730,000	0	4,730,000			0				

公 有 財 産 調 査

(令 和 6 年 度)

区 分	令和6年3月31日現在		増		減		令和7年3月31日現在		摘要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産	/	千円 1,644,212	/	千円 0	/	千円 57,266	/	千円 1,586,946	
土地	m ² 18,000.00	750,394	1.2				m ² 18,001.20	750,394	換地処分
立木竹	本 61	3,553					本 61	3,553	
建物	m ² 4,677.08 7,583.39	761,586				39,130	m ² 4,677.08 7,583.39	722,456	
工作物	個 57	128,679				18,136	個 57	110,543	
普通財産	/	0	/	0	/	0	/	0	
土地	m ² 0.00						m ² 0.00		
建物	m ² 0.00 0.00						m ² 0.00 0.00		
工作物	個 0						個 0		
公有財産に準ずるもの	/	30	/	0	/	0	/	30	
電話加入権	件 3	30					件 3	30	

公 有 財 産 調 査

(令 和 7 年 度)

区 分	令和7年3月31日現在		増		減		令和7年10月31日現在		摘要
	数量又 は面積	台帳価格	数量又 は面積	台帳価格	数量又 は面積	台帳価格	数量又 は面積	台帳価格	
行政財産	/	千円 1,586,946	/	千円 0	/	千円 0	/	千円 1,586,946	
土地	m ² 18,001.20	750,394					m ² 18,001.20	750,394	
立木竹	本 61	3,553					本 61	3,553	
建物	m ² 4,677.08 <hr/> 7,583.39	722,456					m ² 4,677.08 <hr/> 7,583.39	722,456	
工作物	個 57	110,543					個 57	110,543	
普通財産	/	0	/	0	/	0	/	0	
土地	m ² 0.00						m ² 0.00		
建物	m ² 0.00 <hr/> 0.00						m ² 0.00 <hr/> 0.00		
工作物	個 0						個 0		
公有財産に準ずるもの	/	30	/	20	/	0	/	50	
電話加入権	件 3	30		20			件 3	50	価格誤謬の訂正

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和7年度)

(令和7年10月31日現在)

区分	事業名又は契約名	内 容	契約額	(契 約 額 の 年 度 別 内 訳)						
				令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
長期 継続 契約	スクールバス 委託 運行管理業務	スクールバス 運行管理業務 1台 (契約日) 令和6年4月1日	円 14,824,691	円	円	円	円	円 5,016,000	円 4,888,907	円 4,919,784
	通学バス 輸送業務委託	通学バス輸送 業務 3台 (契約日) 令和6年4月1日	円 168,322,000					円 56,558,700	円 55,875,600	円 55,887,700
	給食業務 委託	給食の調理配 膳業務 (契約日) 令和5年8月3日	円 39,534,528				円 8,800,000	円 13,200,000	円 13,150,896	円 4,383,632

行政財産貸付・使用許可調

(令和7年10月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地目		数量又 は面積	貸付料又は 使用料		貸付又は 使用許可 期間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使用 許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	浜松市浜名区 西中瀬2丁 目3番1号	宅地	学校敷地	電柱4本	1,500	6,000 円	3.4.1 ～ 8.3.31	中部電力パワー グリッド(株) 浜北営業所長	電力供給・電 気通信事業設 備設置
2	土地	学校敷地	浜松市浜名区 西中瀬2丁 目3番1号	宅地	学校敷地	0.69㎡	-	免除	7.4.1 ～ 12.3.31	浜松市長	道路反射鏡設 置
3	土地	学校敷地	浜松市浜名区 西中瀬2丁 目3番1号	宅地	学校敷地	0.21㎡	-	免除	7.4.1 ～ 12.3.31	中瀬4区 自治会長	街灯設置
合 計								6,000			

主 要 備 品 調

(令和7年10月31日現在)

整理 番号	区 分		品 名 ・ 規 格	利 用 状 況	購 入 年 月	購 入 金 額
	大・中	小				
1	1-13	その他の厨房器具	真空冷却機 三浦工業 KIG2D-15KH	毎日(年間188日) 給食調理に使用	平成21年3月	円 2,587,200
2	1-13	加熱器具	ガススチームコンベクションオープン コメットカトウ CSVH-G10-T	毎日(年間188日) 給食調理に使用	平成27年2月	1,998,000
3	2-1	パーソナルコン ピュータ(一式)	パーソナルコンピュータ (一式) パソコン16台	(年間0日) 情報の授業に使用	平成29年1月	1,956,010
4	6-9	木工用機械	丸鋸盤 石津製作所 ISC-1300	週3日(年間120日) 作業学習に使用	平成21年3月	1,900,500
5	1-13	調理器具	低輻射立体炊飯器 服部工業 LG-000-150	毎日(年間188日) 給食調理に使用	令和7年3月	1,507,000
6	6-9	木工用機械	かんな盤 鈴三鉄工所 GN-45	週1日(年間40日) 作業学習に使用	平成21年3月	1,430,100
7	10-8	その他の芸術用 器具	陶芸窯 浜松ヒートテック KRK-20B	週1日(年間40日) 作業学習に使用	平成21年3月	1,249,500
8	1-13	食品食器洗浄機	ドアタイプ洗浄機 アイホー ASG-60	毎日(年間188日) 給食調理に使用	平成21年3月	1,096,200
9	1-13	その他の厨房器具	電気式食器消毒保管庫 アイホー EW-2003	毎日(年間188日) 給食調理に使用	平成21年3月	1,092,000
10	1-4	移動書庫	縦型移動棚 オカムラ ROD7AZ	毎日(年間365日) 書類の保管に使用	平成21年3月	745,500
11	1-13	調理器具	ガス回転釜 桐山工業 KIG2D-15KH	毎日(年間188日) 給食調理に使用	平成21年3月	729,750
12	1-13	食品保存庫	電気式消毒保管機 中西製作所 MCSK-10-eT	毎日(年間188日) 給食調理に使用	令和2年3月	713,900
13	3-3	プロジェクター	移動プロジェクター一式 (全12台)	毎日(年間200日) 各授業に使用	平成31年3月	693,360
14	1-13	調理器具	ガス回転釜 服部工業 GHSL-30(特)	毎日(年間188日) 給食調理に使用	平成23年3月	682,395
15	1-13	冷蔵(凍)庫	パススルー冷蔵庫 福島工業 PRD-40RM1-G	毎日(年間188日) 給食調理に使用	平成21年3月	678,300
16	6-9	その他の木工用 機器	集塵機 ムラコシ HM3000	週3日(年間120日) 作業学習に使用	平成21年3月	672,000
17	7-1	除草用機器	芝刈機 バロネス GM64A-M	月2回(年間10日) 除草に使用	平成21年3月	619,500
18	1-13	調理器具	マイコン式立体炊飯器 アイホー RMG-153R	毎日(年間188日) 給食調理に使用	平成21年3月	558,600
19	1-13	冷蔵(凍)庫	冷凍冷蔵庫 福島工業 URN-52PM1	毎日(年間188日) 給食調理に使用	平成21年3月	541,800
20	2-1	その他の情報処 理機器	校内LANサーバ等一式	毎日(年間365日) データ管理に使用	平成29年3月	529,308

公務中の事故等に関する調

1 現金、財産及び占有動産の亡失・損傷事故

破損 年月日	物品番号			状況
	品名	数量	取得価格	
令和7年 2月13日	23-002402 タブレット型コンピュータ Apple iPad 1台 45,210円			生徒Aが朝の会で使用していたiPadを突発的に突き飛ばし、近くにあったホワイトボードに当たり画面が大きく損傷した。修繕について業者に相談したところ費用が高額となることから修繕せず廃棄処分とした。

2 公務災害（通勤災害を含む。）

	受傷 年月日	職名	認定 年月日	治癒 年月日	事故等の概要とその後の状況
1	令和7年 4月17日	教諭	令和7年 7月29日	令和7年 7月14日	興奮している生徒に押され、転倒しないように無理な体勢をとった際、体がねじれ、頸部と腰部に痛みを感じた。左足にもしびれを感じ、通院したところ、最初の病院で頸部挫傷・腰部挫傷、次の病院で骨盤部挫傷・外傷性頸部症候群・腰椎捻挫の診断を受けた。
2	令和7年 6月16日	教諭	令和7年 10月16日	令和7年 6月25日	興奮して教員に噛みつこうとしている生徒を教員から引き離そうと生徒の肩付近に手を置いたところ、左手背に噛みつき負傷した。患部が大きく腫れ、出血もあったため受診すると人咬症の診断を受けた。
3	令和7年 6月26日	教諭	令和7年 10月16日		落ち着かず自傷行為を繰り返す生徒を落ち着かせようと、椅子に座ることを促したところ、両手を捕まれ、手の甲に爪を立てられたため、手を振り払おうとしたときに、生徒の顔に左手が近づき、小指に噛みつかれた。患部からの出血があり、傷も深かったため、受診すると、左小指咬創・左小指神経断裂の診断を受け、7月4日に手術加療と3週間の小指外固定となった。

3 公務中における交通事故

(1) 発生状況

区 分	件 数	事故の内訳		
		加害事故 (過失割合 50%超)	被害事故 (過失割合 50%以下)	その他 (過失割合が不 明なもの等)
4年度	0	0	0	0
5年度	0	0	0	0
6年度	0	0	0	0
7年度	0	0	0	0

(2) 監査対象期間中の事故

なし
4 その他
なし

工事中の事故に関する調

1 工事中の事故発生状況

(令和7年10月31日 現在)

区 分	第 三 者 事 故					工事等の関係者事故				もらい事故 (負傷者あり)	
	件 数	死 亡	重 傷	軽 傷	損害のみ	件 数	死 亡	重 症	重症以外	件数	死 傷
令和5年度	0件	0人	0人	0人	0件	0件	0人	0人	0人	0件	0人
令和6年度	0件	0人	0人	0人	0件	0件	0人	0人	0人	0件	0人
令和7年度	0件	0人	0人	0人	0件	0件	0人	0人	0人	0件	0人

2 工事中の事故の内容 該当なし

工 事 の 種 類	
工 事 (委 託) 名	
工 事 (委 託) 概 要	
事 故 発 生 日 時	
事 故 発 生 場 所	
受 注 者	
事 故 発 生 状 況	
被 災 の 程 度	
事 故 発 生 原 因	
事 後 対 応	

前回の監査結果等改善状況調

1 定期監査

前回監査 令和7年2月17日

前回監査対象期間 令和5年10月1日～令和6年10月31日

区 分	改 善 状 況
1 指 摘 該当なし	
2 注 意 該当なし	
3 意 見 該当なし	
4 指 導 該当なし	

職 員 調

(令和7年10月31日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	校長	八幡 正信	総括	□□□	□年□月	□□□□
2	副校長	春田 美賀子	総括	□□□	□年□月	□□□□
3	教頭	袴田 由美子	総括	□□□	□年□月	□□□□
4	事務長	清水 百代	事務総括	□□□	□年□月	□□□□
5	教諭	村松 晴巳	小学部	□□□	□年□月	□□□□
6	〃	佐藤 佳奈	小学部	□□□	□年□月	□□□□
7	〃	高木 龍治	高等部	□□□	□年□月	□□□□
8	〃	中西 理栄	高等部	□□□	□年□月	□□□□
9	〃	村松 尚美		□□□	□年□月	□□□□
10	〃	藤田 鉄二	高等部	□□□	□年□月	□□□□
11	〃	菊地 智佳	高等部	□□□	□年□月	□□□□
12	〃	井口 律子	小学部	□□□	□年□月	□□□□
13	〃	立部 啓子	中学部	□□□	□年□月	□□□□
14	〃	松河 弘子	小学部	□□□	□年□月	□□□□
15	〃	神家 志保	小学部	□□□	□年□月	□□□□
16	〃	村井 公子	高等部	□□□	□年□月	□□□□
17	〃	落合 江美	小学部	□□□	□年□月	□□□□
18	〃	山崎 仁美	小学部	□□□	□年□月	□□□□
19	〃	阿部 雅野	中学部	□□□	□年□月	□□□□
20	〃	熊谷 恵里	小学部	□□□	□年□月	□□□□
21	〃	山本 清美	高等部	□□□	□年□月	□□□□
22	〃	小川 美香	中学部	□□□	□年□月	□□□□
23	〃	神谷 美穂	高等部	□□□	□年□月	□□□□
24	〃	藤城 ゆかり	高等部	□□□	□年□月	□□□□
25	〃	大庭 清央	高等部	□□□	□年□月	□□□□
26	〃	宮野 彩	高等部	□□□	□年□月	□□□□
27	〃	齊藤 武明	高等部	□□□	□年□月	□□□□
28	〃	滝川 友梨子	中学部	□□□	□年□月	□□□□
29	〃	犬塚 広樹	高等部	□□□	□年□月	□□□□
30	〃	塩崎 めぐみ	高等部	□□□	□年□月	□□□□
31	〃	内藤 有希子	高等部	□□□	□年□月	□□□□
32	〃	杉山 知子	高等部	□□□	□年□月	□□□□
33	〃	村松 紗千子	小学部	□□□	□年□月	□□□□
34	〃	池田 伸太郎	中学部	□□□	□年□月	□□□□
35	〃	寺澤 智香	小学部	□□□	□年□月	□□□□
36	〃	河原崎 純	小学部	□□□	□年□月	□□□□
37	〃	袴田 裕之	高等部	□□□	□年□月	□□□□
38	〃	城 歩	小学部	□□□	□年□月	□□□□

整理 番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘 要
39	教諭	金森 寛子	小学部	□□□	□年□月	□□□□
40	〃	高塚 紳宏	小学部	□□□	□年□月	□□□□
41	〃	嶋 優季	高等部	□□□	□年□月	□□□□
42	〃	早津 あすか	小学部	□□□	□年□月	□□□□
43	〃	高橋 僚兵	小学部	□□□	□年□月	□□□□
44	〃	下出 紘一郎	高等部	□□□	□年□月	□□□□
45	〃	天谷 由香里	小学部	□□□	□年□月	□□□□
46	〃	高山 直子	高等部	□□□	□年□月	□□□□
47	〃	塚本 直子	小学部	□□□	□年□月	□□□□
48	〃	中道 佑華	小学部	□□□	□年□月	□□□□
49	〃	高崎 亮	中学部	□□□	□年□月	□□□□
50	〃	秋野 かざみ	高等部	□□□	□年□月	□□□□
51	〃	鈴木 綾子	中学部	□□□	□年□月	□□□□
52	〃	花前 二未	高等部	□□□	□年□月	□□□□
53	〃	望月 真帆	中学部	□□□	□年□月	□□□□
54	〃	石谷 優二	高等部	□□□	□年□月	□□□□
55	〃	杉浦 健太	小学部	□□□	□年□月	□□□□
56	〃	石田 航介	小学部	□□□	□年□月	□□□□
57	〃	永井 利明	小学部	□□□	□年□月	□□□□
58	〃	友田 健豊	中学部	□□□	□年□月	□□□□
59	〃	細澤 輝	高等部	□□□	□年□月	□□□□
60	〃	平木 佑典	小学部	□□□	□年□月	□□□□
61	〃	鈴木 瑛志	中学部	□□□	□年□月	□□□□
62	〃	島袋 真治	小学部	□□□	□年□月	□□□□
63	〃	桑原 春菜	小学部	□□□	□年□月	□□□□
64	〃	八木 寿実子	高等部	□□□	□年□月	□□□□
65	〃	加藤 亜美	中学部	□□□	□年□月	□□□□
66	〃	昼間 真知子	小学部	□□□	□年□月	□□□□
67	〃	市瀬 郁恵	小学部	□□□	□年□月	□□□□
68	〃	大類 健介	高等部	□□□	□年□月	□□□□
69	〃	山口 直樹	高等部	□□□	□年□月	□□□□
70	〃	後藤 歩	中学部	□□□	□年□月	□□□□
71	〃	末永 智沙	高等部	□□□	□年□月	□□□□
72	〃	稲葉 奈津子	小学部	□□□	□年□月	□□□□
73	〃	東 悠貴	中学部	□□□	□年□月	□□□□
74	〃	加藤 颯	高等部	□□□	□年□月	□□□□
75	〃	河村 史圭	小学部	□□□	□年□月	□□□□
76	〃	矢野 幸二郎	小学部	□□□	□年□月	□□□□
77	〃	水谷 彩香	小学部	□□□	□年□月	□□□□
78	〃	宮分 直美	高等部	□□□	□年□月	□□□□
79	〃	笹瀬 奏子	中学部	□□□	□年□月	□□□□
80	〃	白柳 真理	小学部	□□□	□年□月	□□□□

整理 番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘 要
81	教諭	正久 達也	小学部	□□□	□年□月	□□□□
82	〃	松山 耀典	高等部	□□□	□年□月	□□□□
83	〃	松居 愛奈	高等部	□□□	□年□月	□□□□
84	〃	山梨 雄大	中学部	□□□	□年□月	□□□□
85	〃	江間 夏実	小学部	□□□	□年□月	□□□□
86	〃	阿部 基生	中学部	□□□	□年□月	□□□□
87	〃	望月 春香	小学部	□□□	□年□月	□□□□
88	〃	太田 啓記	小学部	□□□	□年□月	□□□□
89	〃	鈴木 文菜	高等部	□□□	□年□月	□□□□
90	〃	内山 涼香	小学部	□□□	□年□月	□□□□
91	〃	鈴木 雄大	高等部	□□□	□年□月	□□□□
92	〃	山口 早紀	中学部	□□□	□年□月	□□□□
93	〃	磯部 紅里	中学部	□□□	□年□月	□□□□
94	〃	根方 純奈	小学部	□□□	□年□月	□□□□
95	〃	高橋 皐	中学部	□□□	□年□月	□□□□
96	〃	北嶋 一輝	高等部	□□□	□年□月	□□□□
97	〃	風岡 里奈	中学部	□□□	□年□月	□□□□
98	〃	廣瀬 周平	小学部	□□□	□年□月	□□□□
99	〃	鈴木 冴香	中学部	□□□	□年□月	□□□□
100	〃	江頭 晏奈	小学部	□□□	□年□月	□□□□
101	〃	黒田 礼音	小学部	□□□	□年□月	□□□□
102	〃	高柳 里緒	小学部	□□□	□年□月	□□□□
103	〃	篠原 寛季	中学部	□□□	□年□月	□□□□
104	〃	穂屋下 歩梨	中学部	□□□	□年□月	□□□□
105	〃	秋山 裕里	小学部	□□□	□年□月	□□□□
106	〃	澤奥 理央	高等部	□□□	□年□月	□□□□
107	〃	深澤 菜月	小学部	□□□	□年□月	□□□□
108	〃	横原 響	小学部	□□□	□年□月	□□□□
109	〃	天城 帆乃香	高等部	□□□	□年□月	□□□□
110	〃	吉沢 歩	小学部	□□□	□年□月	□□□□
111	〃	那須 咲月季	高等部	□□□	□年□月	□□□□
112	〃	鈴木 大輝	中学部	□□□	□年□月	□□□□
113	〃	吹上 真生	高等部	□□□	□年□月	□□□□
114	〃	金原 匠	中学部	□□□	□年□月	□□□□
115	〃	大石 悠史	高等部	□□□	□年□月	□□□□
116	〃	良知 愛夏	小学部	□□□	□年□月	□□□□
117	〃	中林 美南海	高等部	□□□	□年□月	□□□□
118	〃	高林 明音	小学部	□□□	□年□月	□□□□
119	〃	森田 亜海	小学部	□□□	□年□月	□□□□
120	〃	松浦 桃花	小学部	□□□	□年□月	□□□□
121	〃	武藏島 七星	小学部	□□□	□年□月	□□□□

整理 番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘 要
122	養護教諭	関 裕 子	養 護	□ □ □	□年□月	□□□□
123	〃	細 田 華 菜	養 護	□ □ □	□年□月	□□□□
124	栄養教諭	川 崎 真 那	給 食	□ □ □	□年□月	□□□□
125	主査	村 松 智 佳	会計・庶務	□ □ □	□年□月	□□□□
126	〃	伊 藤 靖 子	庶 務	□ □ □	□年□月	□□□□
127	主任	大 沼 梨 早	会計・管財	□ □ □	□年□月	□□□□
128	技能長	前 田 さかき	用 務	□ □ □	□年□月	
平 均 年 数					3年3月	

臨時職員・非常勤職員

(令和7年10月31日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教諭(任)	藤本 信浩	高等部	□□□	□年□月	□□□□
2	〃	三重野 暁	中学部	□□□	□年□月	□□□□
3	〃	長谷川 恵子	高等部	□□□	□年□月	□□□□
4	〃	染葉 由布子	小学部	□□□	□年□月	□□□□
5	〃	佐藤 友紀	中学部	□□□	□年□月	□□□□
6	教諭(臨)	高橋 香都子	小学部	□□□	□年□月	□□□□
7	〃	瀧口 詠子	小学部	□□□	□年□月	□□□□
8	〃	大石 芳孝	中学部	□□□	□年□月	□□□□
9	〃	池谷 啓子	小学部	□□□	□年□月	□□□□
10	〃	熊本 真澄	中学部	□□□	□年□月	□□□□
11	〃	江間 あゆ美	中学部	□□□	□年□月	□□□□
12	〃	曾布川 健一	中学部	□□□	□年□月	□□□□
13	〃	甲斐 マキ恵	小学部	□□□	□年□月	□□□□
14	〃	辻田 直介	小学部	□□□	□年□月	□□□□
15	〃	大場 亜紀子	小学部	□□□	□年□月	□□□□
16	〃	藤田 綾子	小学部	□□□	□年□月	□□□□
17	〃	齋藤 彩子	小学部	□□□	□年□月	□□□□
18	〃	松浦 隼士	小学部	□□□	□年□月	□□□□
19	〃	小林 良章	高等部	□□□	□年□月	□□□□
20	〃	岩本 ゆり子	小学部	□□□	□年□月	□□□□
21	〃	溝畑 竜之介	中学部	□□□	□年□月	□□□□
22	〃	原田 侑一郎	中学部	□□□	□年□月	□□□□
23	〃	橋本 真優	小学部	□□□	□年□月	□□□□
24	〃	村石 遼太	中学部	□□□	□年□月	□□□□
25	〃	江川 麟太朗	小学部	□□□	□年□月	□□□□
26	医療的ケア 看護職員	森島 久恵	看護	□□□	□年□月	□□□□
27	〃	知久 有利	看護	□□□	□年□月	□□□□
28	〃	加藤 沙侑美	看護	□□□	□年□月	□□□□
29	〃	佐原 晴香	看護	□□□	□年□月	□□□□
30	〃	伊藤 知佳	看護	□□□	□年□月	□□□□
31	非常勤嘱託 員	鈴木 房雄	実習支援	□□□	□年□月	
32	〃	三輪 久幸	実習支援	□□□	□年□月	□□□□
33	〃	今井 教彦	実習支援	□□□	□年□月	
34	〃	浅村 洋子	実習支援	□□□	□年□月	
35	〃	大澤 和馬	実習支援	□□□	□年□月	
36	〃	小須田 夢歩	事務	□□□	□年□月	
37	〃	平井 和恵	事務	□□□	□年□月	

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
38	非常勤講師	芳賀 稚子	中学部	□ □ □	□年□月	□□□□
39	〃	大石 玲子	中学部	□ □ □	□年□月	□□□□
40	〃	石川 智美	高等部	□ □ □	□年□月	□□□□
41	〃	鈴木 美香	小学部	□ □ □	□年□月	□□□□
42	〃	花井 千賀子	小学部	□ □ □	□年□月	□□□□
43	〃	中里 匡志	中学部	□ □ □	□年□月	□□□□
44	〃	原田 悦子	リトミック	□ □ □	□年□月	□□□□
45	非常勤講師	宮形 友香	リトミック	□ □ □	□年□月	
46	非常勤労働職員	松井 啓子	介 助	□ □ □	□年□月	
47	〃	黒滝 善子	介 助	□ □ □	□年□月	
48	〃	鈴木 正明	スクールバス添乗	□ □ □	□年□月	
49	〃	市川 美加江	スクールバス添乗	□ □ □	□年□月	
50	〃	鈴木 すみ江	スクールバス添乗	□ □ □	□年□月	
51	〃	河合 祐二	スクールバス添乗	□ □ □	□年□月	
52	〃	川上 順子	スクールバス添乗	□ □ □	□年□月	
53	就労促進専門員	袴田 佐江	就労促進	□ □ □	□年□月	
54	学校医	廣 建志	内科	□ □ □	□年□月	□□□□
55	〃	石井 るみ子	眼科	□ □ □	□年□月	□□□□
56	〃	大和谷 崇	耳鼻科	□ □ □	□年□月	□□□□
57	〃	岡田 雅仁	整形外科	□ □ □	□年□月	□□□□
58	学校歯科医	石川 恵一	歯科	□ □ □	□年□月	□□□□
59	学校薬剤師	奥田 百彦	薬剤師	□ □ □	□年□月	□□□□
60	健康管理医	大城 一	産業医	□ □ □	□年□月	□□□□

職員の年齢調

(令和7年10月31日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0人	
20歳以上30歳未満	23	
30歳以上40歳未満	43	
40歳以上50歳未満	34	
50歳以上56歳未満	10	
56歳以上61歳未満	14	
61歳以上	4	再任用4人(フル3 短1)
計	128	平均年齢 40.7歳

健康管理

1 前年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 150 人
	職員数 154 人
受 診 率	97.4 %
県平均受診率	99.9%

(1) 未受診の理由

育休 2 人
特休 2 人

2 本年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0 人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0 人
B 2		要経過観察	0 人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってもよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	0 人
C 2		要経過観察	0 人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	42(7) 人
D 2		要経過観察	40(5) 人
D 3		医 療 不 要	62(13) 人
区 分 者 計			144(25) 人
未区分者数			9 人
合 計			153 人

(1) 管理区分 A～C 2 該当者に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休 1 人
イ 新規採用 6 人
ウ 自己都合による未受診 人
エ その他 2 人